

12. ハチの巣の駆除について

むつ宮林署 ○瀬川 嘉光
品木 福二郎
大川 和雄

1 はじめに

「蜂はどこにいるかわからない。蜂に刺されるのは仕方がない。」などの声を聞くことが多いが、私たちが仕事をしていくためには、やはり蜂に刺されない方法を考えなければならない。

蜂に刺されないための対策としては

- ① 防蜂具を着用し、蜂に刺されないようにする。
- ② 誘引捕殺や蜂の巣を駆除して蜂がいなくなるようにする。
- ③ 臭い煙などで蜂が側に寄ってこないようにする。

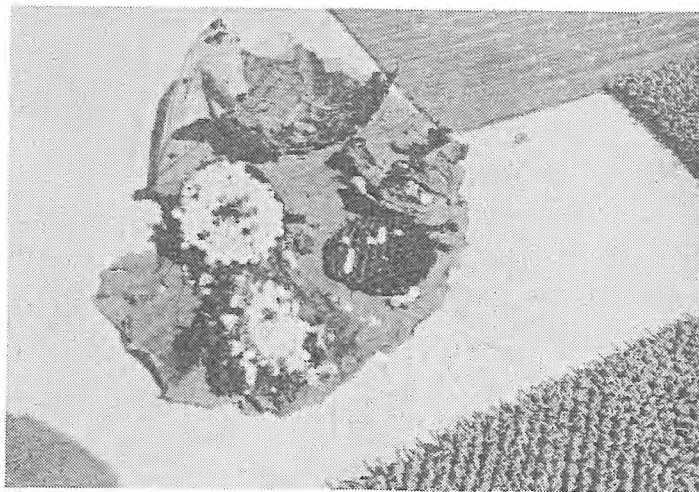
などの方法が考えられる。

2 研究の経過

安全衛生委員会で、蜂の巣を駆除する良い方法はないものかという討論となった。私が小学生の遠足の時に、蜂の巣に農薬を掛けたら翌日蜂が巣からいなくなったことを思い出し提案したところ、早速実験することとなった。

農薬は殺虫剤のダイプレックスを使用した。この殺虫剤はDEP粉剤B類で、稲、とうもろこし、スイカ、桜、松等29種類の野菜、くだもの、樹木に使用されているものである。農薬の散布には造林事業で使用している除草剤散布機「ゼノアMD430」を使用した。

最初に休憩所の軒下の巣に試してみた。蜂の攻撃がどの程度になるのか予想がつかなかったので、散布機に薬剤1袋3Kgを入れ、エンジンを全開にし、巣から7～8m離れたところから散布した。5m位の所まで近づいたが蜂からの攻撃はまったくなかった。

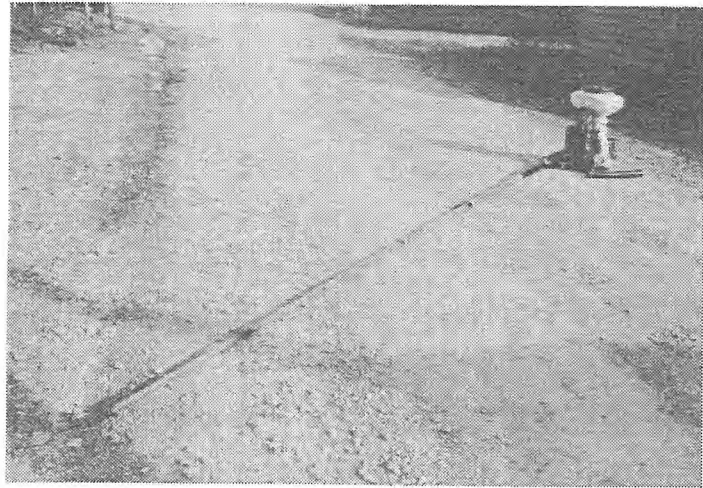


(写真-1) 蜂の巣の中の状況

2日後に結果を見たら、蜂は巣の中で死んでいたが、ハチの子は生きていた。

(写-1)

次に薬剤の使用量が少なくても、確実に安全に効果が上がるよう散布機の筒先に測竿を付け、伸び縮みするように改良し、巣に直接薬剤を注入するようにした。(写-2)



(写真-2) 動力散布機に測竿を取付けた蜂の巣駆除器

3 研究の結果

今回の研究を通じて次のようなことがわかった。

(1) 農薬の殺虫剤が蜂に効くということと、その農薬を除草剤散布機で散布できること。

(2) 除草剤散布機に測竿を取付けたことにより次のような効果があった。

① 巣から離れて散布できるので散布者が蜂に刺される危険が少なくなったこと及び薬剤を吸う心配がなくなったこと。

② 巣の中に直接薬剤を注入できるので使用量が大幅に減り、1つの巣を処理するのに500g位で十分であること。

③ 測竿の長さを調節できるので、人の手の届かない高い所とか崖ぶちのような危険な所でも駆除することができること。

(3) 巣の中に薬剤を注入しても、幼虫が生きていて、巣をそのままにしておくと羽化するものもあるので、必ず巣を駆除して処分すること。

(4) 市販されている薬剤で良いので、巣を1個駆除するのに95円弱で済んだ。



(写真-3) 薬剤を散布中の状況

- (5) 巣に直接薬剤を注入散布できるので、巣を発見しておけば雨降りなど蜂刺されの危険の少ない日に随時組合わせ作業によって駆除できること。
- (6) 今後、次のようなことが検討課題として残った。
 - ①蜂の種類、巣の大きさ、時期に応じた適正な薬剤の量の検討。
 - ②クロスズメバチに対する効果の判定。

4 おわりに

- (1) 皆で考えて行動することによって、次のアイデアが生まれてくる。
- (2) 測竿を取付けるというような小さなアイデアと努力の積み重ねが、大きな効果につながる。
- (3) 自分達が考えたことが仕事に役立つということで、チームワークにも、今後の仕事にも良い影響を与えることになる。

以上のことから、私たちはやればできるということを知った。
これからもいろいろなことにチャレンジして、よい仕事を楽しくできるように努力していきたいと思う。